

第 1 章 現況・課題の整理

1

都市の現況

(1) 自然的条件

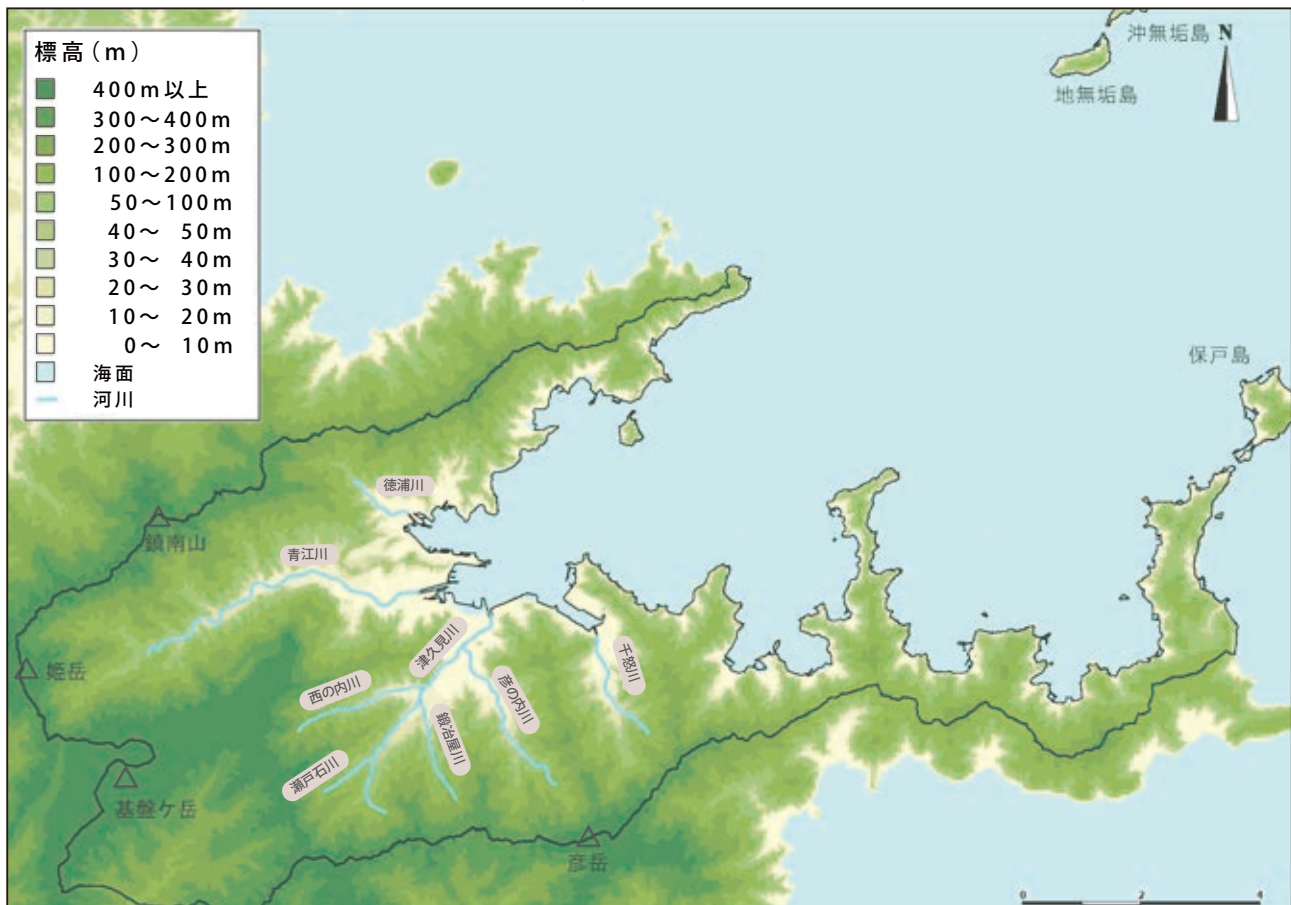
本市は、大分県の南東部に位置し、豊後水道に面した海沿いの都市であり、北に臼杵市、南に佐伯市と境を接し、東西に28km、南北に12km、総面積*は79.48km²となっています。

豊後水道に面した津久見湾の湾口部を囲うようにして半島部の典型的なリアス海岸が伸び、それをさらに鎮南山、姫岳、碁盤ヶ岳、彦岳といった600～700mの山地が三方から馬蹄型に囲んでいます。島しょ部は、四浦半島の延長に保戸島、長目半島の延長に地無垢島、沖無垢島と合計3島があります。美しいリアスの海岸線が山地斜面のミカン栽培の段々畑とコントラストをなしており、色とりどりの風光明媚な景観を構成しています。また、山地部に広がる石灰岩地帯の鉱山は、本市ならではの独特な景観を織りなすとともに、基幹産業（石灰石・セメント産業）を支える貴重な資源として利用されています。

本市は、比較的温暖な気候に恵まれ、台風の襲来や冬の厳しい季節風から守られており、自然災害も少ない都市と言われてきましたが、平成29年台風第18号では、市内を流れる津久見川、青江川や徳浦川が氾濫するなど、市全域で多くの市民が甚大な被害を受けました。

* 津久見市の総面積 79.48km²：国土地理院令和3年10月全国都道府県市区町村別面積調

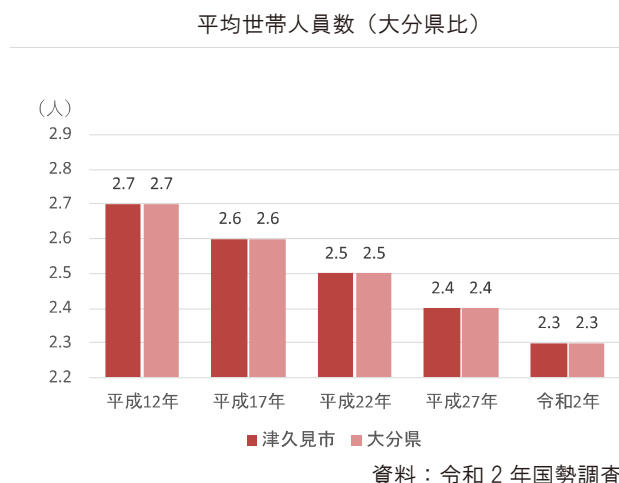
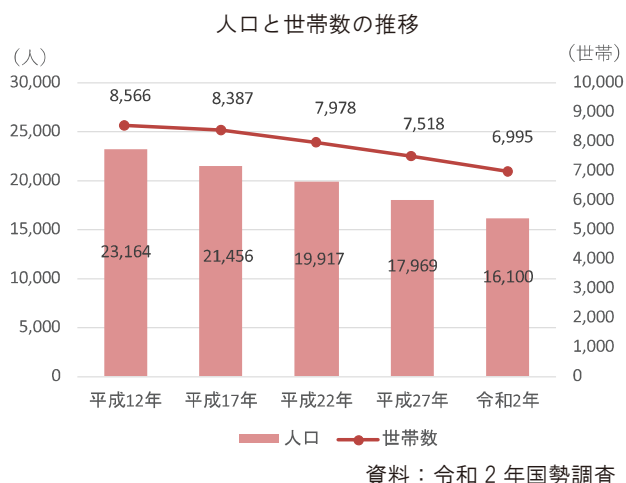
津久見市の地形



(2) 人口・世帯数

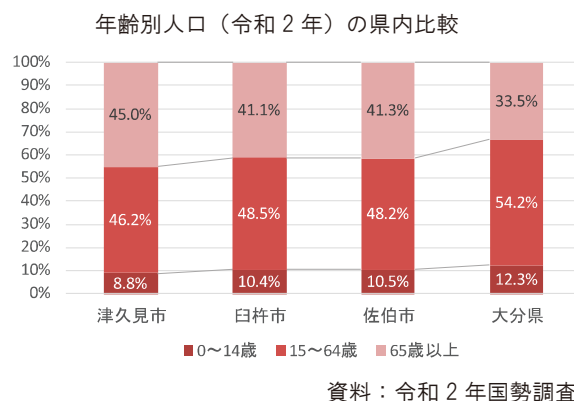
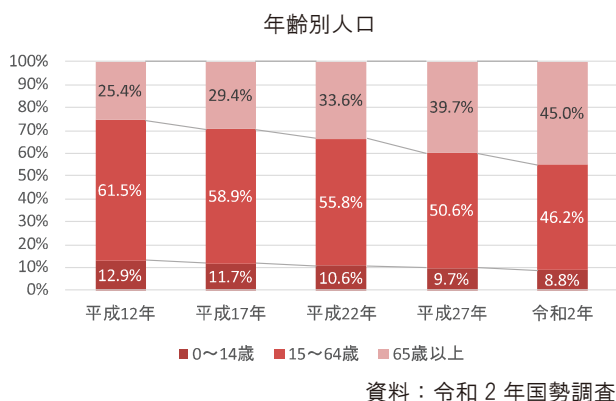
① 人口の推移

本市の人口推移をみると、令和2年国勢調査人口で16,100人となっており、平成12年から20年間で約7,000人の減少がみられます。隣接する臼杵市、佐伯市と比較しても、本市の人口減少率が高い状態となっています。また、世帯数と世帯人員も減少し続けており、平成12年以降の世帯人員数は県平均値と同等の値を示しております。



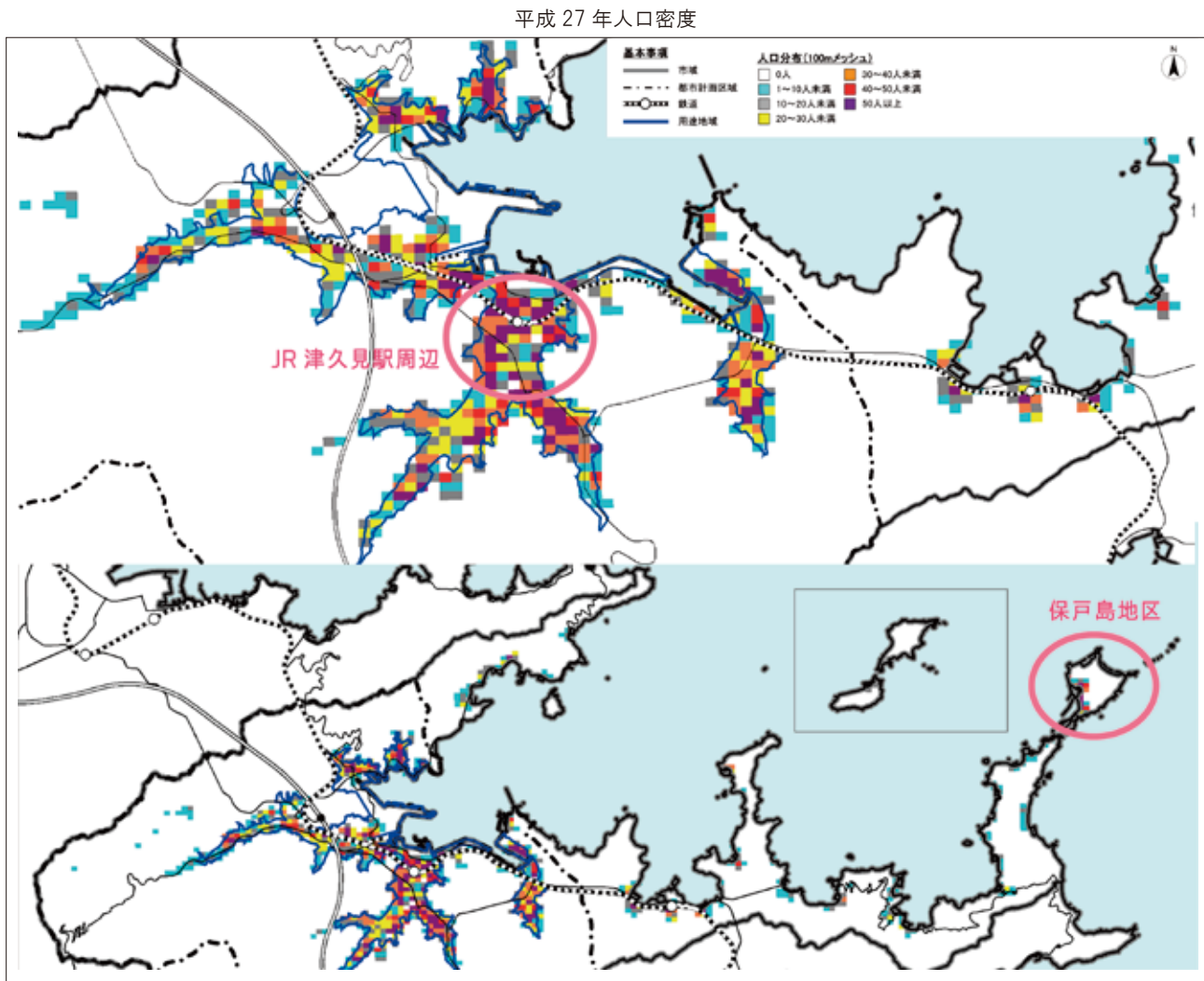
② 年齢別人口

本市の年齢別人口の推移をみると、65歳以上の人口が著しく増加する一方で0～14歳と15～64歳の人口が減少しています。令和2年の年齢別人口をみると、65歳以上の高齢者人口構成比は県平均値以上となっています。また、隣接している臼杵市、佐伯市もほぼ同じ状況となっており、これら隣接都市と比較しても15～64歳の人口構成比が若干低くなっています。



③ 人口密度

平成 27 年において、保戸島地区の人口密度が 50 人 /ha を下回るなど、徐々に人口が減少し、人口密度が低下しています。また、JR 津久見駅周辺は、都市機能・公共交通の利便性が特に高いエリアであるにもかかわらず、他地区と比較しても特に人口が集積されているとは言えません。これは、居住者の高齢化のほか、狭小で老朽化した土地や建物によって、人口が郊外に拡散していることが考えられます。



④ 流出流入人口

○○○…

(2月28日公表予定、データ待ち)

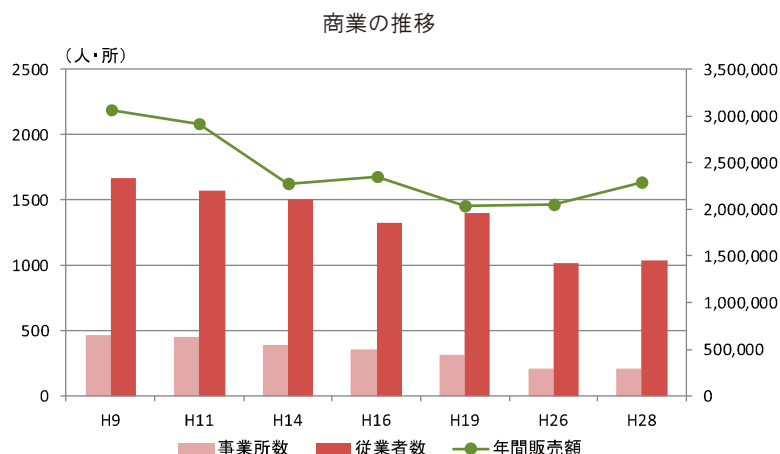
資料：令和2年国勢調査

(2月28日公表予定、データ待ち)

(3) 産業

① 商業

本市の商業動向は、事業所数、従業者数ともに減少傾向となっています。特に、事業所数は一貫して減少しており、平成28年では平成9年のほぼ半数にまで減少しています。従業者数については、平成19年にやや増加したものの、平成28年では平成9年の約4割減少しています。また、年間販売額は平成14年に急激に下がっているものの、平成19年以降は増加傾向にあります。

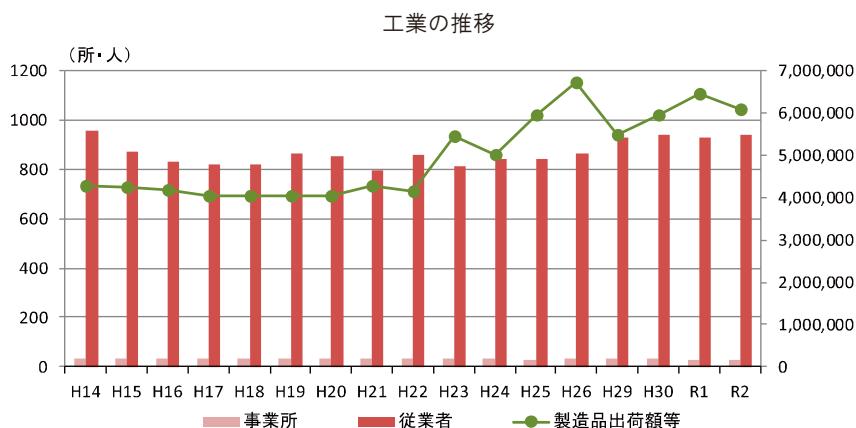


資料：津久見市統計書

② 工業

本市の工業は、リアス海岸を利用した天然の良港と豊富な石灰岩の産出を生かして、大分県の発展に寄与する役割を果たしてきました。

本市の工業の推移をみると、出荷額については、平成14年から平成22年までの間に増減を繰り返しながらもある程度の数字を保っていましたが、平成22年から令和2年にかけて急激な増減が続いています。事業所数は大きな変化は見られないものの、減少傾向にあります。従業者数は平成14年から令和2年までの17年間で増減を繰り返しています。また、令和2年における製造品出荷額構成比をみると、本市で最も出荷額の多い製造品は、窯業土石（セメント）で全出荷額の8割以上を占めており、次いで一般機械、食料品となっています。

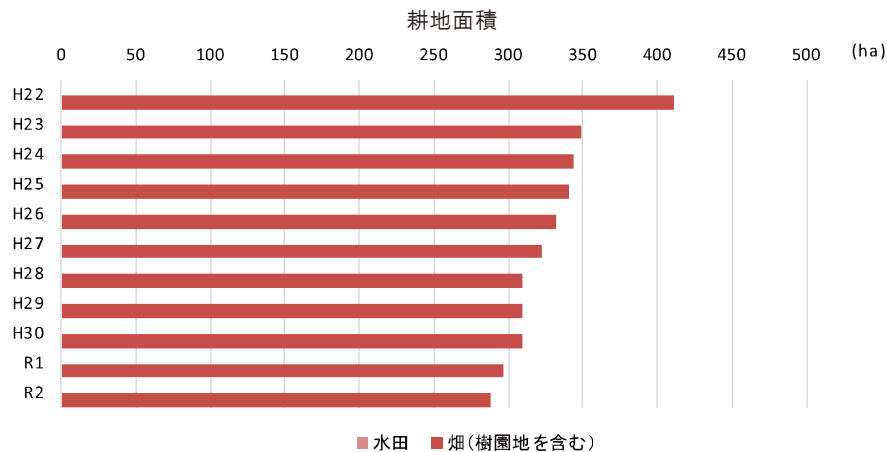


資料：津久見市統計書

③ 農林漁業

○ 農業

農業は、古くからミカンを主体とした柑橘類の生産が中心となっており、他都市と違って水田がないという特徴を持っています。耕地面積は年々減少しており、平成22年で411haであった耕地面積は、令和2年には288haまで減少しています。



資料：津久見市統計書

○ 林業

本市の林業については、平成24年から令和元年まで林野面積4,951haを保っており、そのすべてを民有林が占めています。

林業の状況										各年度末時点
年次	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
総数(ha)	4,949	4,949	4,951	4,951	4,951	4,951	4,951	4,951	4,951	4,951
国有林(ha)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民有林(ha)	4,949	4,949	4,951	4,951	4,951	4,951	4,951	4,951	4,951	4,951

資料：平成22年度～令和元年度の大分県統計年鑑

○ 漁業

漁業は、津久見湾や豊後水道を主要漁場とした多獲性魚や高級魚を対象にしたまき網、刺網、一本釣、小型底びき網等の沿岸漁業、保戸島を基地とする近海・遠洋マグロ漁業及びブリやヒラメ等の養殖漁業に大別され、魚種は豊富です。近年では、本マグロの養殖も行われています。また、限りある水産資源を守り育てる資源管理型漁業が積極的に進められています。

本市内の漁業経営体数は、大分県の経営体数の1割強で推移を続けており、年によって増減はあるものの徐々に減少しています。

単位：経営体

漁業の経営体数の推移

各年翌1月1日

年次	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H20年	H25年	H30年
大分県	4,043	4,603	3,536	4,235	3,979	3,152	2,983	2,371	1,914
津久見※	301	252	297	337	319	285	234	177	145
保戸島※	211	221	200	217	183	125	217	165	139

※海区ならびに漁業地区

資料：令和元年度の大分県統計年鑑

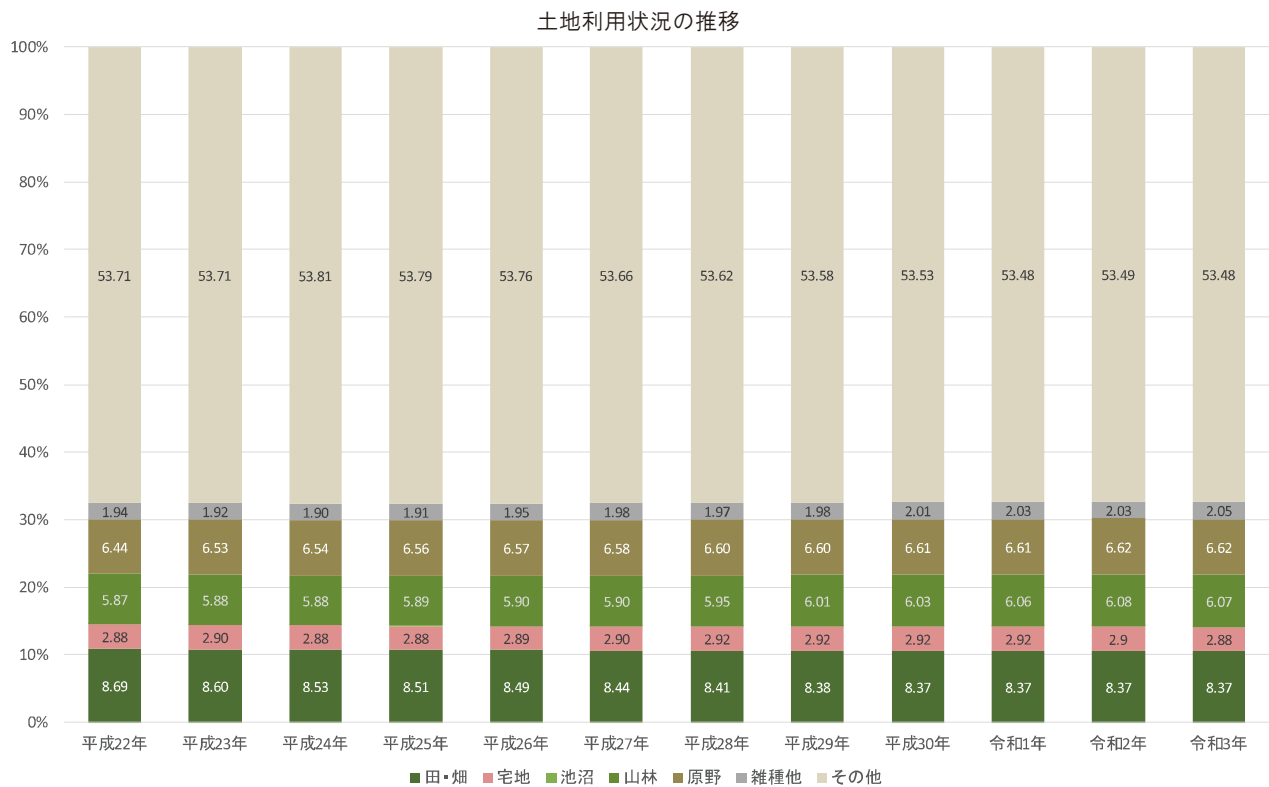
(4) 土地利用

本市の土地利用の構成をみると、その他の土地利用（採掘場等）が多いほか、その他の土地利用以外は変化が少ないという特徴がみられます。

土地利用状況の推移 単位：km²

年次	田・畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種他	その他	合計
平成22年	8.69	2.88	0.01	5.87	6.44	1.94	53.71	79.54
平成23年	8.60	2.90	0.01	5.88	6.53	1.92	53.71	79.55
平成24年	8.53	2.88	0.01	5.88	6.54	1.90	53.81	79.55
平成25年	8.51	2.88	0.01	5.89	6.56	1.91	53.79	79.55
平成26年	8.49	2.89	0.01	5.90	6.57	1.95	53.76	79.57
平成27年	8.44	2.90	0.01	5.90	6.58	1.98	53.66	79.47
平成28年	8.41	2.92	0.01	5.95	6.60	1.97	53.62	79.48
平成29年	8.38	2.92	0.01	6.01	6.60	1.98	53.58	79.48
平成30年	8.37	2.92	0.01	6.03	6.61	2.01	53.53	79.48
令和1年	8.37	2.92	0.01	6.06	6.61	2.03	53.48	79.48
令和2年	8.37	2.9	0.01	6.08	6.62	2.03	53.49	79.5
令和3年	8.37	2.88	0.01	6.07	6.62	2.05	53.48	79.48

資料：津久見市統計書



(5) 市街地開発事業及びその他の開発動向

本市では、10地区の土地区画整理事業が都市計画決定され、現在まで9地区の事業が完了しています。

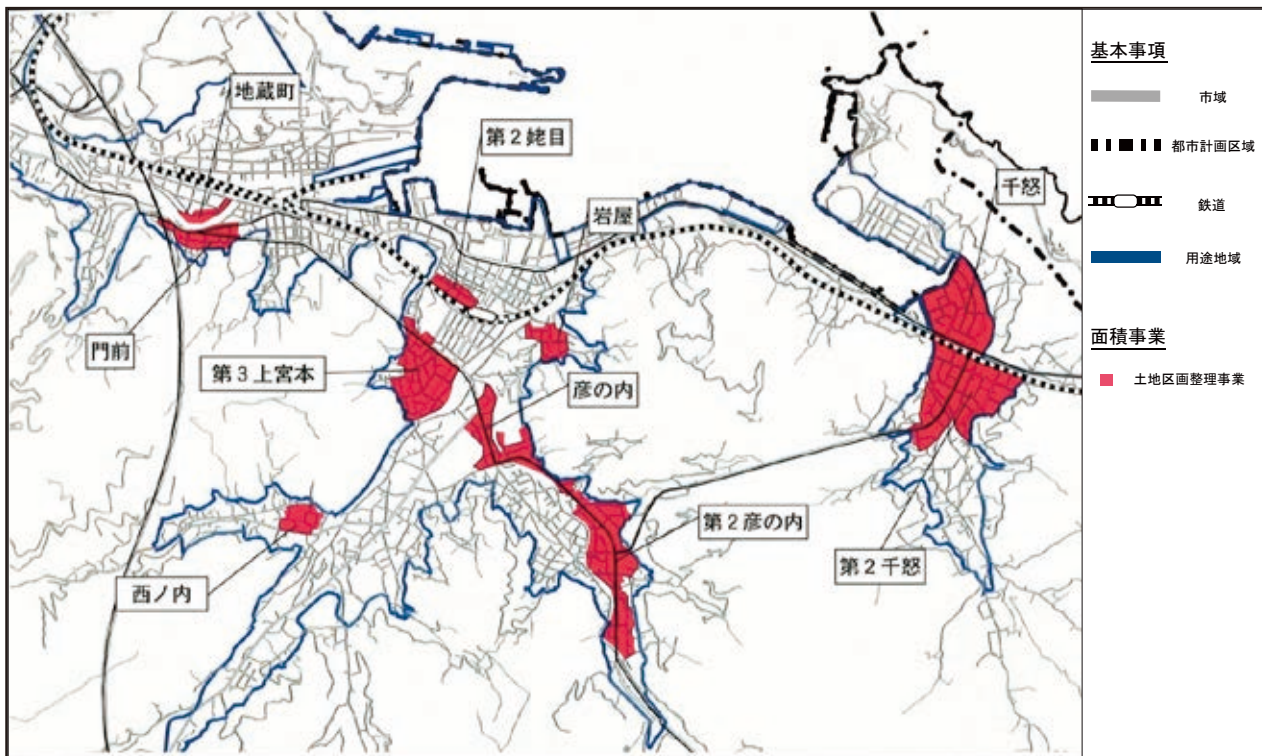
土地区画整理事業実施状況

令和3年3月31日現在

名称	施行主体	施行面積 (ha)	都市計画 当初決定 年 月 日	都市計画 最終決定 年 月 日	告示番号	事業年度	摘 要
第2姥目	市	1.7	S28.10.12		建告1348号	S29～S43	完了
彦の内	市	3.9	S34.11.14		建告2288号	S35～S44	完了
岩屋	組合	2.5	(土地区画整理法のみによる事業)			S36～S42	完了
第3上宮本	市	9.4	S28.10.12	S61. 2.19	市告 5号	S38～R 5	清算中
門前	市	3.5	S41.12.18		建告4290号	S42～S50	完了
千怒	市	10.3	S53.12.12		市告 65号	S53～H 2	完了
西の内	組合	2.3	(土地区画整理法のみによる事業)			S56～S58	完了
第2彦の内	組合	15.2	(土地区画整理法のみによる事業)			S57～H 1	完了
地藏町	共同	0.8	(土地区画整理法のみによる事業)			S63～H 1	完了
第2千怒	市	14.8	H 7. 3. 7	H22. 3.30	市告 26号	H 7～H28	完了

資料：大分県の都市計画（資料編）

市街地開発事業位置図



(6) 法規制指定状況

① 都市計画法

○ 都市計画区域・用途地域

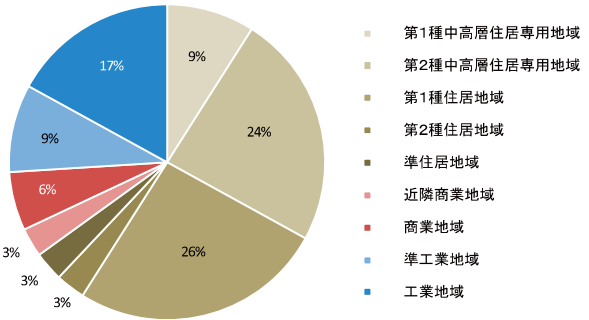
本市では、行政区域の約63%に対して都市計画区域が指定されており（指定面積4,997ha）、このうち約12%の588haに対して用途地域が指定されています。用途地域の内訳は、住居系用途地域が半分以上を占めており、次いで工業系用途が多くなっています。

用途地域指定状況

区分	面積(ha)	構成比(%)
用途地域	588	
第1種中高層住居専用地域	50	9%
第2種中高層住居専用地域	141	24%
第1種住居地域	156	26%
第2種住居地域	18	3%
準住居地域	17	3%
住居系用途地域合計	382	65%
近隣商業地域	16	3%
商業地域	36	6%
商業系用途地域合計	52	9%
準工業地域	55	9%
工業地域	99	17%
工業系用途地域合計	154	26%

資料：大分県の都市計画（資料編）

令和3年3月31日現在



都市計画区域・用途地域指定状況の比較

令和3年3月31日現在

都市名	区域名	行政区域		都市計画区域		都計区域/行政区域		用途地域 面積(ha)	用途/都計 面積比(%)
		面積(ha)	人口(人)	面積(ha)	人口(人)	面積比(%)	人口比(%)		
大分市	大分	50,239	477,393	36,105	465,333	72	97	11,288.0	31
別府市	別府※	12,534	114,216	8,587	113,887	69	100	2,818.0	33
中津市	中津	49,144	83,517	5,629	70,311	11	84	2,652.6	47
日田市	日田	66,603	63,434	6,625	49,224	10	78	1,244.0	19
佐伯市	佐伯	90,314	69,198	4,125	37,487	5	54	1,167.0	28
臼杵市	臼杵	29,120	37,350	4,822	26,521	17	71	1,109.0	23
津久見市	津久見	7,948	16,582	4,997	14,144	63	85	588.0	12
竹田市	竹田	47,753	20,694	1,754	7,366	4	36	431.0	25
豊後高田市	豊後高田	20,624	22,556	5,300	15,259	26	68	586.0	11
杵築市	杵築	28,008	28,014	5,029	19,298	18	69	412.0	8
宇佐市	宇佐	43,905	55,262	9,622	43,709	22	79	782.0	8
豊後大野市	三重	60,314	35,091	2,235	13,250	4	38	439.9	20
国東市	国東	31,810	27,515	827	3,981	3	14	264.0	32
日出町	日出	7,326	28,333	4,039	27,483	55	97	570.0	14
由布市	湯布院	31,932	33,838	1,874	8,379	6	25	631.0	34
	挾間			2,489	15,819	8	47	462.1	19
玖珠町	玖珠	28,660	14,795	1,072	9,332	4	63	301.0	28
計		606,234	1,127,788	105,131	940,783	-	-	25,745.6	-

別府※ 別府国際観光温泉文化都市建設計画

資料：大分県の都市計画（資料編）

② 農業振興地域の整備に関する法律

本市の農業振興地域は令和3年度で5,534haが指定されており、そのうち790haが農用地区域に指定されています。

③ 自然公園法

本市には、自然公園法に基づく自然公園が2箇所指定されています。これら自然公園は、本市の地域特性の1つでもあるリアス海岸を中心に指定されています。

自然公園法の状況

公園の名称	指定日	面積(ha)	備考	全体
日豊海岸国定公園	S49.2.15	357.9		全体:28,474.2 陸域:4,293.8 海域:24,180.4
豊後水道県立自然公園	S26.3.30	3,087	区域変更 S49.5.31	8,271.5
合 計		3,444		36,745.7

資料:大分県環境白書(令和2年度版)
※津久見市のみの面積

(7) 交通

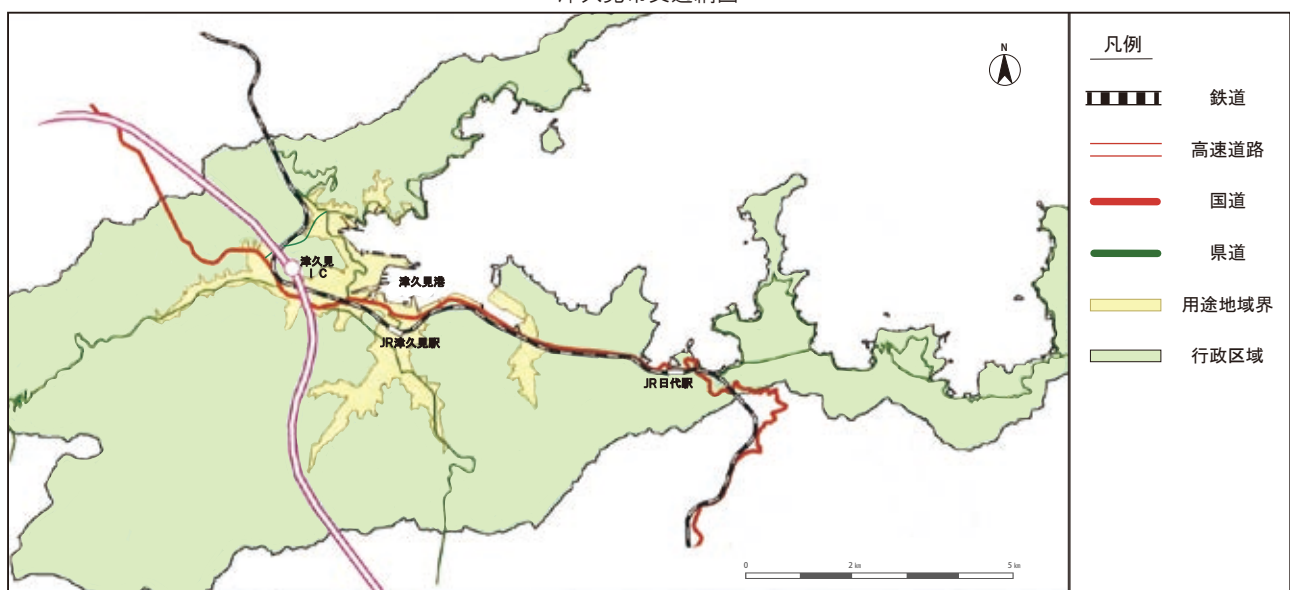
① 道路

本市では、市内を通過する国道217号が都市の骨格となっており、そこから半島部や谷地に向かって県道が延びる構造となっています。

リアス海岸に沿って延びる県道や山地部を連絡する道路については、屈曲部が多く、幅員が狭隘な箇所が多いため、日常的な通行において不便な状況が見られるほか、道路寸断時には代替道路を持たないエリアも残されています。

また、JR日豊本線が市街地を南北に分断する形で通過しており、その大半は踏切交差となっています。

津久見市交通網図

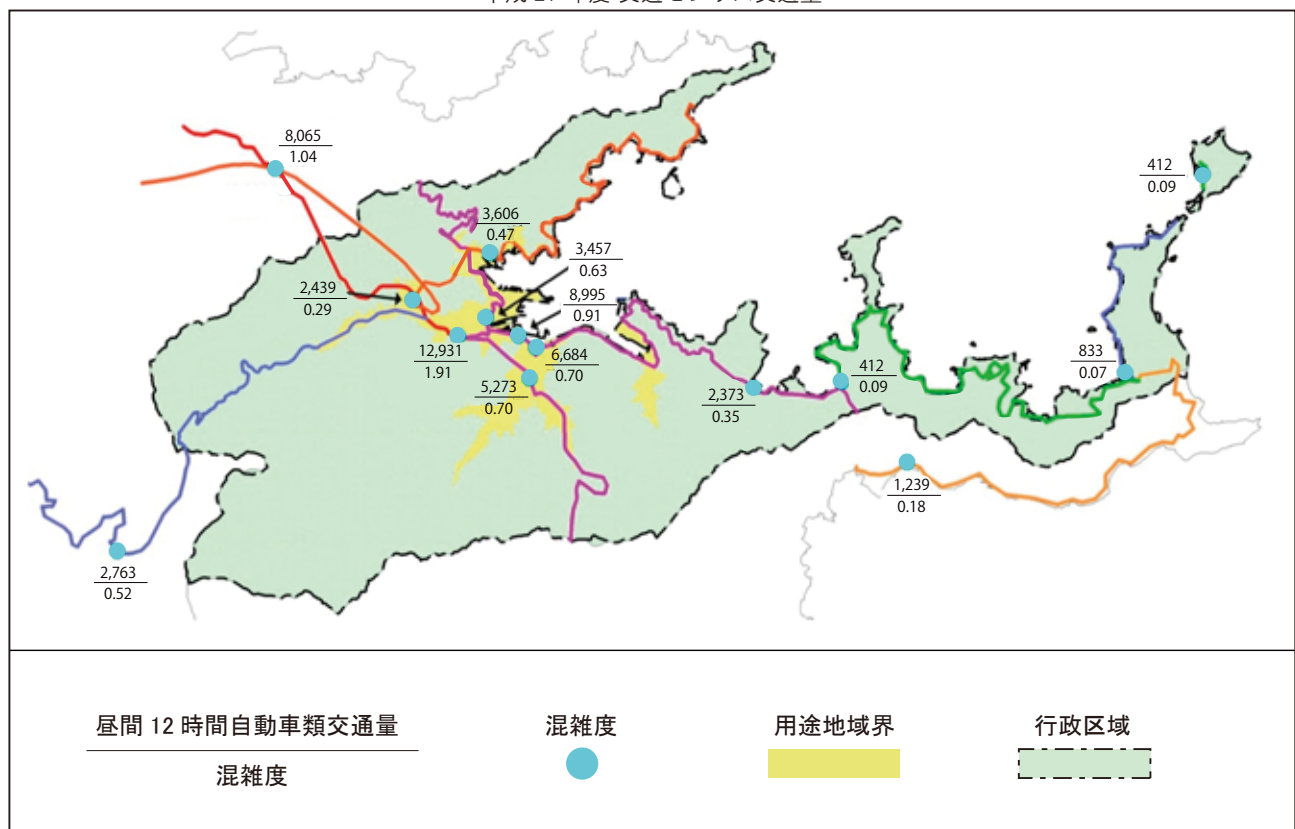


自動車交通量

路線名	観測地点名	昼間12時間 自動車類 交通量 (台)	24時間 自動車類 交通量 (台)	(H22)12時間 自動車類 交通量 (台)	(H22)24時間 自動車類 交通量 (台)	H27/H22 交通量 増減 12時間	H27/H22 交通量 増減 24時間	昼夜率	ピーク比率 昼夜間 12時間 (%)	大型車 混入率 昼夜12時間 (%)	混雑度
東九州自動車道	臼杵IC～津久見IC間	8,065	10,021	15,962	21,152	0.51	0.47	1.24	11.5	12.1	1.04
東九州自動車道	津久見IC～佐伯IC間	7,042	8,756	10,104	12,758	0.70	0.69	1.24	10.7	13.6	0.87
一般国道217号	津久見市新町9番2号	12,931	16,293	12,273	16,200	1.05	1.01	1.26	11.2	5.4	1.91
一般国道217号	津久見市中央町(旧消防前)	8,995	10,774	9,130	10,932	0.99	0.99	1.20	11.3	6.1	0.91
一般国道217号	津久見市大字網代	2,373	2,990	9,130	10,956	0.26	0.27	1.26	11.3	7.2	0.35
津久見野津線	津久見市大字上青江	2,763	3,481	105	128	26.31	27.20	1.26	11.0	12.4	0.52
臼杵津久見線	津久見市セメント町	3,457	4,218	2,639	3,220	1.31	1.31	1.22	13.3	14.9	0.63
津久見停車場線		6,684	8,288	4,952	6,537	1.35	1.27	1.24	12.0	6.6	0.70
四浦港津井浦線		1,239	1,487	1,327	1,699	0.93	0.88	1.20	10.4	6.3	0.18
四浦日代線		412	523	449	575	0.92	0.91	1.27	10.9	10.9	0.09
四浦日代線	津久見市大字四浦	833	1,016	906	1,105	0.92	0.92	1.22	10.6	7.2	0.07
長目中ノ島線		539	663	581	732	0.93	0.91	1.23	11.5	3.3	0.06
津久見インター線	津久見市大字上青江	2,439	2,976	2,713	3,473	0.90	0.86	1.22	13.0	8.2	0.29
大泊浜徳浦線	津久見市徳浦本町	3,606	4,435	3,333	4,066	1.08	1.09	1.23	11.3	8.0	0.47
佐伯津久見線	津久見市文京町	5,273	6,558	4,327	5,250	1.22	1.25	1.24	11.2	8.6	0.70

資料：平成27年度交通センサス

平成27年度 交通センサス交通量



② 港湾

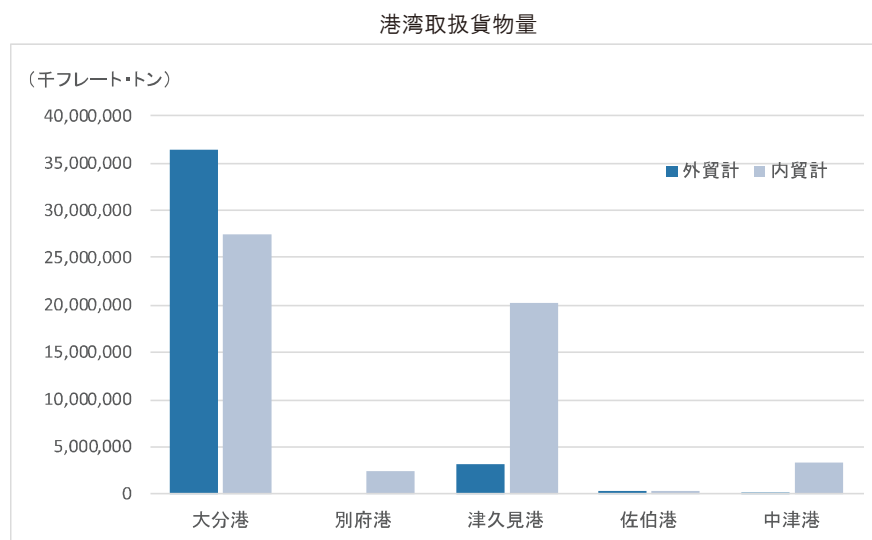
本市では、市街地の中心に津久見港が位置しており、保戸島や無垢島へと定期便が運航しています。また、津久見港は重要港湾（※）に位置づけられており、国の海上輸送網の拠点として利用されています。

津久見港の取扱貨物量は大分港に続いて県内で2番目に多く（約23,500万フレート・トン※）、取扱貨物量の内訳でみると内貿が全体の約86%を占めています。

港湾取扱貨物量 単位：フレート・トン

港湾名	全体	外貿計	輸出	輸入	内貿計	移出	移入
重要港湾	93,722,984	39,964,283	9,606,120	30,358,163	53,758,701	39,757,635	14,001,066
大分港	63,771,340	36,380,845	6,790,045	29,590,800	27,390,495	17,202,552	10,187,943
別府港	2,507,657	0	0	0	2,507,657	1,204,419	1,303,238
津久見港	23,498,903	3,187,720	2,695,614	492,106	20,311,183	19,170,550	1,140,633
佐伯港	619,753	336,376	86,941	249,435	283,377	91,956	191,421
中津港	3,325,331	59,342	33,520	25,822	3,265,989	2,088,158	1,177,831

資料：令和元年港湾統計



資料：令和元年港湾統計

※フレート・トン (Freight Tonnage)：貨物運賃計算の基礎となる貨物の単位で、運賃トンともいう。

※重要港湾：港湾法第2条第2項で「国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重大な関係を有する港湾」

③ 鉄道

本市には、JR 日豊本線が通っており、市内には JR 津久見駅と JR 日代駅があります。

鉄道は、公共交通機関の軸として都市の発展や特産品の物流に寄与するとともに、通勤通学者や観光客に利用されています。

駅の利用状況の推移

単位：人

駅名	種類	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
JR津久見駅	乗車人員	285,757	283,391	285,623	309,211	301,150	322,665	-	-	-	-	-
	降車人員	289,704	286,994	290,733	313,524	307,236	326,985	-	-	-	-	-
	合計	575,461	570,385	576,356	622,735	608,386	649,650	-	-	-	-	-
	1日あたりの乗車人員	-	-	783	847	825	884	878	809	841	819	709
JR日代駅	乗車人員	21,474	17,334	16,075	15,518	15,130	16,389	-	-	-	-	-
	降車人員	19,605	15,329	13,608	12,716	12,258	14,267	-	-	-	-	-
	合計	41,079	32,663	29,683	28,234	27,388	30,656	-	-	-	-	-
	1日あたりの乗車人員	-	-	44	43	41	45	-	-	-	-	-

資料：津久見市統計書

④ バス

本市には、5路線のバス路線が通っており、日常の足として市民に利用されています。しかしながら、バス利用者は年々減少しており、平成22年と令和2年で比較すると5割以上減少しています。

市内バス（各路線毎）の利用状況の推移

単位：百人

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
川内線	126	72	114	83	76	100	85	64	68	80	49
中ノ内線・西ノ内線	11	10	12	10	7	14	13	12	10	6	10
千怒・赤碓經由間元線	213	211	224	177	195	152	146	150	146	133	98
内名(堅浦)線・長目線	335	277	236	326	236	201	190	208	173	177	151
柳原經由市浜線	10	22	5	14	23	23	29	13	17	20	13
計	695	592	591	610	537	490	463	447	414	416	321

資料：津久見市統計書

⑤ 離島航路

本市には、保戸島・無垢島を結ぶ2つの離島航路があり、島民の重要な生活航路となっていますが、利用者数は減少傾向となっています。

離島航路（各路線毎）の利用状況の推移

単位：人

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
保戸島航路	97,240.5	94,522.5	84,952.0	94,205.0	89,623.5	84,406.5	81,092.0	74,870.5	68,007.0	74,865.5	61,163.0
無垢島航路	6,856.0	6,495.5	5,555.0	4,397.0	4,066.0	4,125.0	3,897.0	3,684.0	3,747.0	3,554.0	1,719.0

※ 12歳未満については2人で1人とカウント
資料：津久見市資料

(8) 都市基盤整備状況

① 都市計画道路

本市では、18路線が都市計画道路として指定されています。計画の決定延長は32,788mで、このうち23,475mで整備が完了していますが、JR津久見駅周辺などに整備が進んでいない道路もあります。(整備率約71.6%)

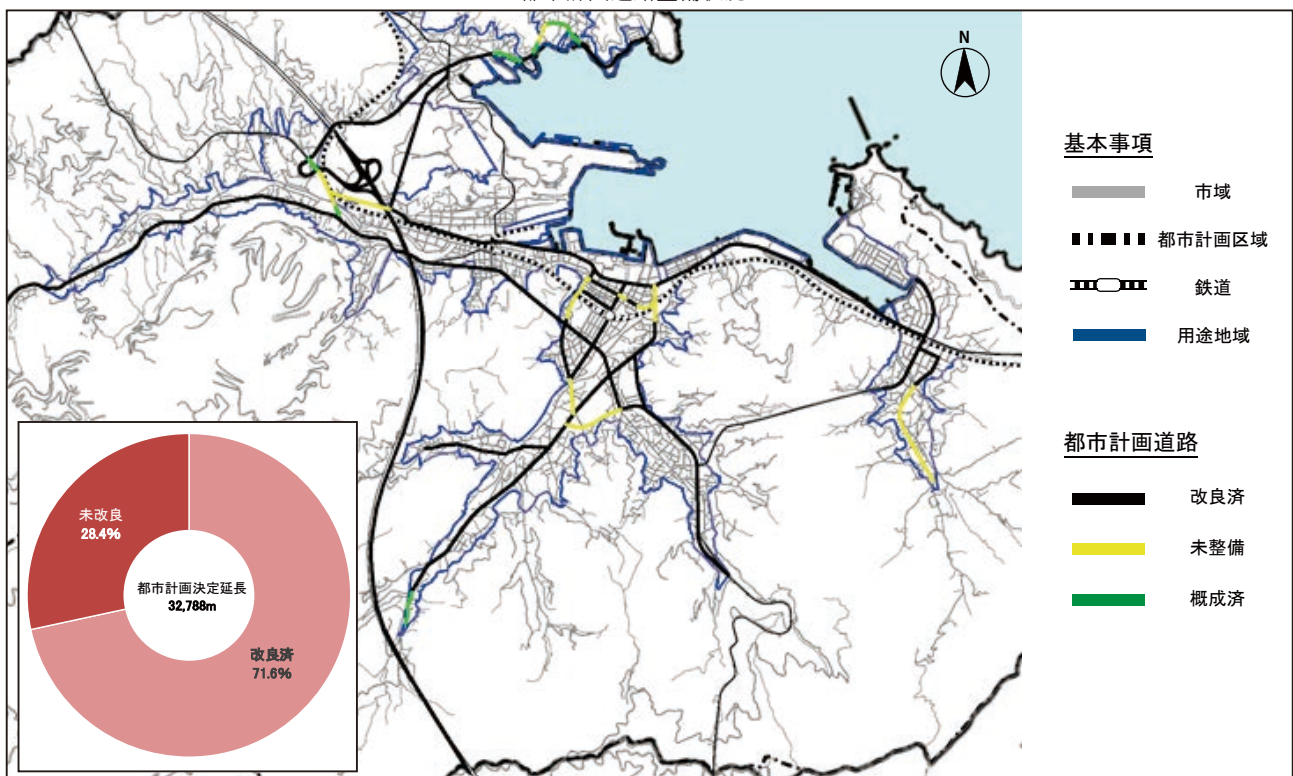
都市計画道路整備状況

令和4年3月31日現在

番号	名称	都市計画決定状況		計画車線 の数 (車線)	計画 幅員 (m)	計画決定 の延長 (m)	改良済 延長 (m)	概成済 延長 (m)	改良率 (%)
		当初決定	最終決定						
1.3.1	青江津久見線	H8.11.12	H17.1.18	4	23.5	5,250	0		0.0%
3.4.1	駅前線	S30.3.31	H17.1.18	2	18	230	230		100.0%
3.4.2	松崎高洲線	S30.3.31	H17.1.18	2	16	1,400	1,246		89.0%
3.5.3	角崎中田線	S30.3.31	H7.3.7		12	1,100	480		43.6%
3.6.5	井無田川内線	S30.3.31	H23.3.30	2	11	4,300	4,300		100.0%
3.6.6	井無田成守線	S30.3.31	H17.1.18	2	11	1,500	1,500		100.0%
3.4.7	角崎新地線	S30.3.31	H17.1.18	2	16	3,380	3,380		100.0%
3.5.8	大友彦の内線	S57.7.6	H17.1.18	2	12	1,940	1,940		100.0%
3.6.9	駅裏線	S30.3.31	S50.11.11		11	520	520		100.0%
3.6.10	高洲中の内線	S43.4.19	S57.7.1		11	3,450	2,964	236	85.9%
3.4.11	長野堅浦線	S30.3.31	H22.3.30	2	16	3,300	2,027	768	61.4%
3.7.12	姥目線	S30.3.31	S57.7.1		7	250	250		100.0%
3.6.16	西の内線	S30.3.31	S50.11.11		8	940	940		100.0%
3.5.17	成守大工線	S30.3.31	H7.3.7		14	600	180		30.0%
3.6.18	千怒彦の内線	H7.3.7	R3.9.17	2	16	523	523		100.0%
3.5.19	千怒線	H7.3.7	H7.3.7		13	1,260	455		36.1%
3.6.20	平岩松崎線	H22.3.30	H22.3.30	2	11.25	1,650	1,345		81.5%
3.6.21	志手徳浦線	H22.3.30	H22.3.30	2	10.75	1,195	1,195		100.0%

資料：津久見市資料

都市計画道路整備状況



資料：津久見市資料

② 都市計画公園

本市では、街区公園 11 箇所、近隣公園 3 箇所、地区公園 1 箇所の合計 15 箇所の公園が都市計画決定されており、都市計画公園の整備率は約 92.4%となっています。

都市計画公園整備状況

令和 3 年 3 月 31 日現在

			計画 (ha)	供用 (ha)	整備率	当初決定
街区公園			1.94	1.94	100.0%	
	2.2.1	警固屋児童公園	0.17	0.17	100.0%	S32.12.19
	2.2.2	セメント町児童公園	0.10	0.10	100.0%	S32.12.19
	2.2.3	徳浦仲よし児童公園	0.08	0.08	100.0%	S32.12.19
	2.2.4	えびす児童公園	0.34	0.34	100.0%	S48.12.28
	2.2.5	徳浦公園	0.33	0.33	100.0%	S48.12.28
	2.2.6	宮本東児童公園	0.15	0.15	100.0%	S48.12.28
	2.2.7	宮本西児童公園	0.12	0.12	100.0%	S49. 8. 9
	2.2.8	高洲幼児公園	0.05	0.05	100.0%	S50.11.11
	2.2.9	西ノ内児童公園	0.07	0.07	100.0%	S58. 3. 2
	2.2.10	千怒児童応援	0.32	0.32	100.0%	S58. 3. 2
	2.2.11	広浦児童公園	0.21	0.21	100.0%	H 4. 7.13
近隣公園			4.50	4.50	100.0%	
	3.3.1	大友公園	1.10	1.10	100.0%	S32.11.19
	3.3.2	宗麟公園	0.90	0.90	100.0%	H 5. 3.19
	3.3.3	つくみん公園	2.50	2.50	100.0%	H15. 3.11
地区公園			6.70	5.70	85.1%	
	4.4.1	宮山公園	6.70	5.70	85.1%	S51.10. 8
総合公園						
	-	-	-	-	-	-
運動公園						
	-	-	-	-	-	-
特殊公園						
	-	-	-	-	-	-
広域公園						
	-	-	-	-	-	-
公園 計			13.14	12.14	92.4%	
緑地 計			-	-	-	

資料：大分県の都市計画（資料編）

③ 下水道

本市の公共下水道は、都市計画区域内の 318.1ha が排水区域に計画決定されており、このうち 291.9ha で整備が完了しています。（整備率約 91.8%）

④ 上水道

上水道事業における給水区域内現在人口に対する現在給水人口で表される普及率は約 98%となっています。上水道事業の水源は、市の中心部にあり、青江川水系、津久見川水系の地下水を主に取水しています。

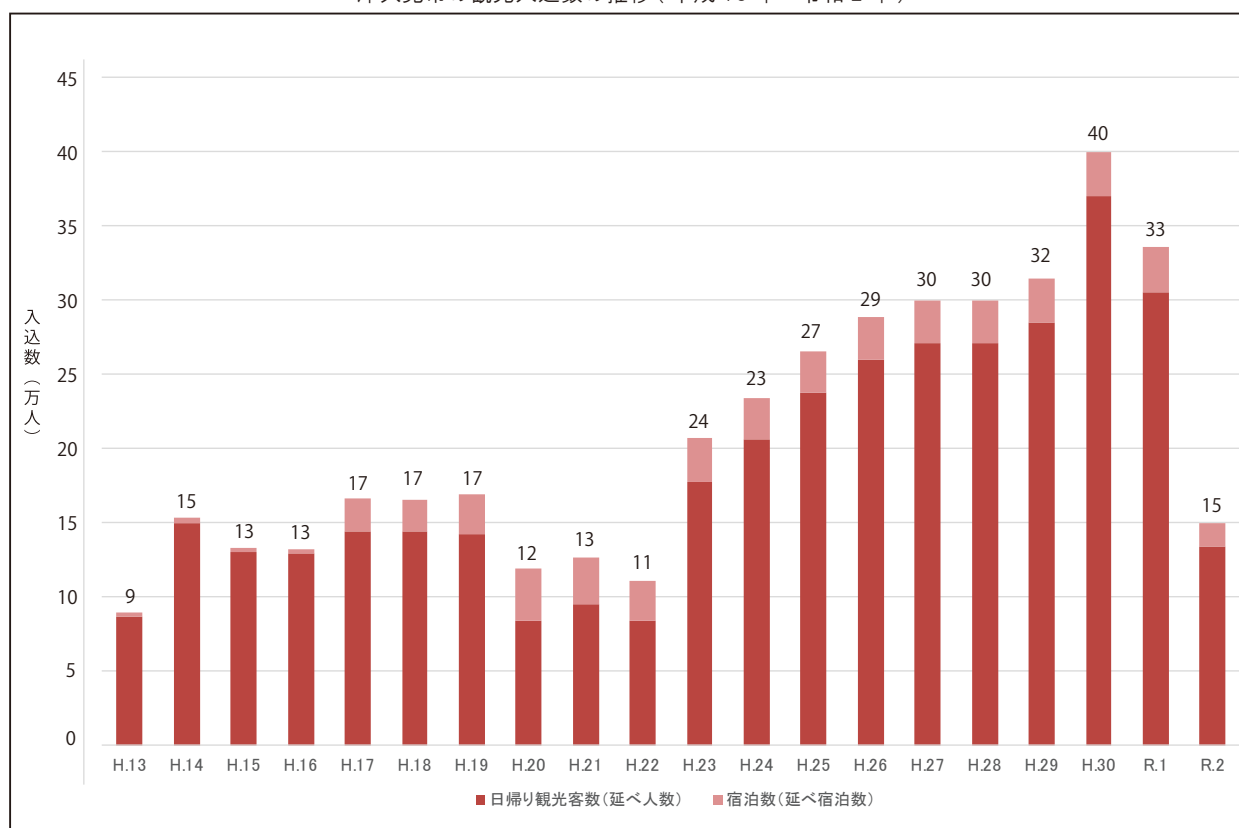
(9) その他、保全・活用すべき資源等

① 観光

本市の観光入込客延人数は平成22年まで伸び悩んでいたものの、平成23年のつくみイルカ島開業以来増加傾向にあり、平成30年には約40万人まで達しています。イルカ島へは、県内の他に、福岡県や宮崎県など、東九州自動車道沿道からの来訪者が多くなっています。

また近年は、つくみん公園、四浦半島河津桜観光、保戸島への日帰り・団体旅行等の来訪者も増加傾向にあります。

津久見市の観光入込数の推移（平成13年～令和2年）



資料：津久見市資料



イルカ島の様子



港まつりの花火

② 文化財等

本市には、国天然記念物に指定されている「尾崎小ミカン先祖木」、県天然記念物に指定されている「姥目のウバメガシ」をはじめ、市指定の天然記念物、文化財、史跡が各地に分布しています。

指定文化財の状況			令和3年3月31日現在
指定主体	種類	名 称	指定年月日
国指定	天然記念物	尾崎小ミカン先祖木	昭和12年6月15日
県指定	天然記念物	姥目のウバメガシ	昭和35年3月22日
	無形民俗文化財	堅浦霜月祭りの芸能	平成10年3月20日
		津久見扇子踊り	平成24年9月18日
市指定	天然記念物	アコウ	昭和51年10月8日
		姥目公園ウバメガシ	〃
		千怒新地ウバメガシ	〃
		彦ノ内谷川天満社 タブノキ	平成10年1月12日
		田尾拝高天満社 タブノキ	〃
		中田鍛冶屋天満社 イヌマキ	平成31年3月5日
		武速神社 イロハモミジ	令和3年3月5日
		鬼丸板碑	平成3年3月31日
	有形文化財	道尾石幢	〃
		川内石幢	〃
		世尊寺五重塔	〃
		村上神社宝篋印塔	〃
		高野家文書	平成5年1月11日
		臼杵藩領津久見絵図	〃
		解脱閣寺文書	〃
		軸丸文書	〃
		江ノ浦区有文書	〃
		長頸壺	〃
		赤八幡社楼門	平成28年4月6日
		道尾磨崖五輪塔	平成30年4月2日
		長幸無縫塔	〃
		戸高家文書	〃
		海德寺の魚鱗塔	平成31年3月5日
		深良津の蛭子像	〃
		西郷文書	〃
		二村薫調査記録	〃
	無形民俗文化財	ジョウヤラ踊り	平成3年3月31日
		堅浦正調扇子踊り	平成30年4月2日
		高浜のとんど	〃
		保戸島加茂神社神幸祭	〃
	史跡	大友宗麟公墓	平成5年1月11日



尾崎小ミカン先祖木



姥目公園ウバメガシ



津久見扇子踊り



大友宗麟公墓

2

都市の特性・問題点と課題のまとめ

これまで捉えてきた都市の現況から、本市における都市づくりに関する特性や問題点をまとめたものを示します。

① 人口減少と地域産業の活性化

第5次津久見市総合計画や津久見市総合戦略に基づき、少子高齢化、人口減少社会に対応する取組を進めてきましたが、いずれにも歯止めをかけることは叶わず、転出超過の状況は依然として続いている状況です。特に若い世代の転出超過の状況は男女共に顕著であることから、安価な住宅環境の提供や、生活利便性の向上などによって、「**本市に住みたい、住み続けたい**」と思われる**魅力あるまちづくり**が求められています。また、人口減少に比例し、地域産業における従業者数や生産額も横ばい若しくは減少傾向にあり、地域産業の活性化と雇用創出に強力に取り組んでいく必要があります。

本市は、東九州の大動脈である東九州自動車道、一般国道217号平岩松崎バイパスの全線開通、海運も含めた恵まれた交通立地条件により、将来的にも東九州地域の経済圏の拠点となる可能性も秘めています。平坦部が少なく、宅地も少ないという地理的制約もありますが、市有地・民有地を問わず土地利用を積極的に進め、企業誘致・立地、観光産業の育成、安価な住宅地造成等につなげ、都市まちづくりの基盤を構築することで、人口減少に歯止めをかけていかなければなりません。



② 新庁舎・街なか観光拠点の一体的整備による市中心部（中心市街地）の位置づけ

築 63 年を経過し老朽化が著しい現市庁舎の建て替えは大きな行政課題となっており、現在、令和 2 年 1 月に策定した「津久見市新庁舎建設基本計画」に基づき、「新庁舎建設設計等業務」を実施しています。この新庁舎建設は、津久見港埋立地の市有地において、街なか観光拠点との一体的な整備を目指し、さらには周辺環境の整備を進めることで、公共施設を含めた都市機能や交流機能の集積を図ることとしています。

また、現在実施している「都市再生整備計画事業」において、JR 津久見駅から概ね半径 1km 以内を「滞在快適性等向上区域」（まちなかウォークアブル区域）と定めていますが、**新庁舎と街なか観光拠点の一体的整備を機に、このエリアを市中心部（中心市街地）と位置づけ、このエリアを中心（核）とした、これまでにない新しい都市を創造する**といった理念のもと魅力的な都市まちづくりを進めていく必要があります。



③ 道路網整備と公共交通ネットワークの形成

道路網については、東九州自動車道、国道217号、県道佐伯津久見線等の広域・都市連携路線について、国や大分県に対し更なる機能強化・維持に向けた働きかけを強化していくことと、市中心部と周辺地域を結ぶ幹線道路を整備し、**市内のどの地域に居住しても移動利便性が高く、快適な生活環境を維持**できるよう努めていくことが重要です。

そして、人口減少や高齢化などにより、利用者の減少に歯止めがかからない状況となっている路線バスや鉄道、離島航路など市内を運行（航）する公共交通機関の利用促進については、新庁舎や街なか観光拠点の一体的整備を機に、新たな交通結節点整備を検討するなど、市民全体の課題として取組を進めていく必要があります。



④ 災害に強いまちづくり

本市は、地形的に平地が少ないため、限られた土地に人口が密集しており、それらのエリアは、津波、河川氾濫、土砂災害等のリスクがあります。また、地形・地質条件等からがけ崩れ、地すべり、土石流等が発生しやすいとも言われています。

近年では、全国各地で甚大な被害を伴う災害が毎年のように発生しており、本市でも平成29年台風第18号の豪雨により、市内全域で浸水や冠水等の甚大な被害が発生しました。

大雨や台風による洪水被害だけでなく、今後発生されると予想されている南海トラフ巨大地震にも備え、津久見港埋立地に津波避難ビル機能や防災拠点としての機能を兼ね備えた新庁舎を整備することとしています。**大規模災害が発生しても被害を最小限に抑えられるよう、事前防災と減災の考え方**を念頭に置き、「津久見市国土強靱化地域計画」、「津久見市地域防災計画」等の関連する計画との整合性を図り、災害に強いまちづくりを推進していく必要があります。



⑤ 自然・産業景観の活用

本市においては、海辺を「日豊海岸国定公園」、丘陵地を「豊後水道県立自然公園」に指定された豊かな自然の中に、農業や漁業そして鉱工業から生まれた独自の産業景観を有しています。マグロ漁業基地として栄えた「保戸島」の漁港・集落景観や市街地には、石灰の岩肌がむきだしになった採掘場跡や鉱山の眺望、産業用パイプライン、大型運搬船の停泊する港など迫力ある鉱業景観が形成されています。

また、平成29年台風第18号災害からの復興・復旧の取組の一つとして推進している「津久見川景観まちづくり計画」、本市のシンボルとなる新庁舎・街なか観光拠点施設のデザインなど、「津久見らしい」景観形成を目指していく必要があります。今後は、本市の持つ景観の魅力への理解や保全など景観意識を市全体で醸成しつつ、「津久見らしい」景観について市民のなかで共通認識を高める活動を推進していくことが必要です。



⑥ 住民主体のまちづくり

本市では、つくみん公園のコンテナ 293 号や中心商店街内の Cafe1/2 の整備を実施した「津久見観光周遊性創出事業」や市中心部のまちづくりについて、数多くのワークショップ等を行ってきました。また、地区社協、自主防災組織、防犯パトロールや交通安全などの地域活動も活発に行われています。

さらに、小学校区や伝統芸能、桜観光等を通じた地域コミュニティも発達しており、住民主体のまちづくりの機運は醸成されていると言えます。

今後は、このような取組を継続するとともに、中学生や高校生などの若い世代の参画、大学等との連携、ボランティア団体の育成等に努め、**行政と住民との協働参画による住民主体のまちづくり**をこれまで以上に推進していく必要があります。

